

芸術と教育Ⅱ

— 東日本大震災に向けて —

筒井通子

奈良文化女子短期大学

Art and Education Ⅱ :
For the People at the Great East Japan Earthquake

Michiko Tsutsui

Narabunka Women's College

芸術を通して被災された方々を支援していくとともに、学生たちが東日本大震災の現状を知り、「今、自分たちに何ができるか。」を考え、復興に積極的にかかわろうとする姿勢と、未来の教育者としての資質を養うための活動を行い、その意義について考察した。

キーワード：芸術と教育、東日本大震災、支援、復興、鑑賞教育

1. はじめに

東北地方太平洋沖地震は、2011年（平成23年）3月11日14時46分、太平洋三陸沖を震源として発生した地震であり、東日本大震災を引き起こし、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらした（図1）。発生当日より国内各地から消防・警察の広域緊急援助隊が派遣され、海上保安庁、自衛隊も救助・捜索・港湾復旧などを行った。

その後も国内の多数の企業・団体が支援を表明し、地震直後より、国際連合を始めとした国際機関、世界各国が日本に対して支援を行っている。日本国内外を問わず様々な組織・団体または個人が、この地震に対して支援を表明し、実行する中、奈良県に所在する本校にはどのような支援が可能であろうか。



図1 2012年8月13日 釜石市 本学撮影

筆者は、復興支援の一翼を担うべく美術教育を通じて取り組んでいた。別稿¹⁾でも、『国際平和・交流』は、『芸術』の力を借りることによって必ずや前進するものと考え」と述べている(図2)。ここでは、長期的な支援のための取組について紹介する。

2. 「芸術と教育」

2.1 「鑑賞と表現」

文部科学省の「専門教育に関する各教科 第12節 美術」(第3章)に、第1款の目標として「美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を養う」²⁾と書かれている。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針の第2章ねらい及び内容の「表現」に「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とある。目標やねらいに「感性」、「表現」という言葉があるが、「表現」はただ、「あらわす」ことではなく、コミュニケーションの手段でもある。また、「感性」は、単に「物事を心に深く感じ取る働き」だけではなく、情操が働き、心が動くことであると筆者は考える。

「表現」したものを「鑑賞」することで心が動き、「行動」する。保育者になろうとする者は、「行動」する力をもつことが重要である。

2.2 東日本大震災と美術教育

筆者は長年、絵画制作を続けてきた。震災直後は、小学校長として救援物資や義援金の取組を保護者や地域に呼びかけ支援活動をしたが、教育者として長く支援のできることはないかと考えた。そこで、復活を願う絵や、少しでも心が安らぐような絵を描き、被災された方々に鑑賞していただくと思った。

そして、この活動を未来の幼児教育を担う学生が取り組むことが重要であると考えた。月日が過ぎた今だからこそ、再度、東日本大震災について考え、何らかの形で復活に向けて共に歩むことを意識し、「行動」へと移せるようにする。

そのためには、学生全員が被災された方々の現状を知るとともに、芸術を通しての支援を自ら考え、積極的に取り組む姿勢を養うことが必要である。

以上のようなことから、芸術を通しての支援の一例を次項に示す。



図2 「芸術と教育」の書と造形表現「新聞紙で制作した犬」：美術展での掲示

3. 造形表現

3.1 「芸術」を通しての支援（図3）

筆者は、絵画を通して被災地の方々へ支援のメッセージを送っている。そこには、多くの出会いがある。岩手県の方々と芸術でコミュニケーションをしている。今回は学生が芸術を通して交流した。



図3 美術展での出会い
被災地の方々と交流 7/13

3.1.1 「復活Ⅰ」（図4）への思い

学生たちは造形の授業の中で被災者の話を聞きながら被災地の写真や映像（図5）、「ぞうけいだより（図6）」を見るとともに筆者が復活を願って描いた「復活Ⅰ」を鑑賞した。

そして、「復活Ⅰ」から感じ取ったことをまず文字で表現する（図7）。作品を自由に鑑賞し、自分の感じたことを引き出すことが、「復活Ⅱ」の表現への理解につながる。

まず見ることで、それだけでも芸術のもつ力を感じることができる。



図4「復活Ⅰ」
制作：筒井通子



図7 「復活Ⅰ」を鑑賞し、考え、文を書く。8/1



図5 絵と映像の観賞

ここに学生たちの観賞後の感想を載せる。この「復活Ⅰ」の作品についての説明ははじめに行わずに鑑賞から入った。

実際にキャンパスに描かれた「復活Ⅰ」の絵と一人ずつに配布したそのポストカードだけである。

一人一人が一枚のポストカードを持ち、作品を見て自分がどう感じたかを書いている（図8、9）。観賞教育は、作品を自由に味わうために時間をかけることが重要である。

「観賞する」⇒「考える」⇒「話す・書く」という流れを通して自分が感じたことを思考と言葉や絵で表現する力を養う。



図6 「ぞうけいだより」で
東日本大震災の現状を知る。



図8「復活Ⅰ」と映像、造形だよりを見て
ポストカードに自分の考えを書く。

絵から伝わるものは、まさに「復活」です。海の色である青、
の背景から、「白」で強調された人間たちが上手くマッチ
している。人間たちの動きは、津波により流された木々
等の自然の復活を願って糸を植えているようにも
見え、立ちあがりつつある瞬間に見えたりもします。
人間と自然の復活がイ伝わります。

暗やみの中になくさんの人が
少しでも復活が早くできる
ようにと、力を合わせている
姿が描かれているものだと
思った。また、周りが明るくな
って、暗やみの中でも、みんな
が協力してやれば、できる限り
の努力をすれば、希望の光が
見えてくるという思いも込め
られていると思う。自分も、で
きることはや、ていきたいと思
う。

東日本大震災はたくさんの方が亡くなりました。
東日本だけでなく、日本全体が元気がなくなって
暗くなりました。けれどそんな日本ではなく元気な日本が
一番で、私たちができることは復活することに少しでも
希望を持つことだと思います。この絵は東日本に
なっとなつても自然を取り戻そうという希望が感じられると
思いました。

地震の津波により、何もかもが流されて物がなくな
ってしまつたところに、人が自分たちの力でまた1から
作り出していくような様子を感じました。
東にの地や人の心も元に戻すには時間がかかると
思いますが、自分もその復活に少しでも関わりたい
と思います。

復活Ⅰを見て、黒い闇の
中で助け合つて復興を目指
して頑張るほほしい。というよ
うな願いが込められている
と感じました。今、私はな
にげない日々を過ごして
いるけれど、何か自分に
できることはないかと考え
させられました。

図9 学生の感想

「観賞」という時間をもつことによって作品をより深く見ることができ、考えることができる。色や形にも目を向けられる。感じたことを文字に表すことは容易ではないが目の前に作品があれば何度も見ることができる。観賞は適宜行い、自分自身で思考し、自分の言語で表現できるようになることによって感性を豊かにできる。「感動」「衝撃」は、自分自身が感じることである。そして、感動があるからこそ「行動」に移っていける。

3.1.2 「復活Ⅱ」を表現

学生たちは「復活Ⅰ」を鑑賞し、筆者の絵に込める思いを聞き、作者とコミュニケーションをした。その後、今、自分たちに何ができるかを話し合い、被災地へ送るポストカードを制作した。それぞれの「表現」の仕方があったが、文章からも、被災地の復活のために「行動」しようとする姿勢が感じられた。

作品には「復活Ⅱ」と題名を付け、その作品で共に歩んで行きたいという思いとともに、心を伝え被災地へ送付した。

その一部を挙げる（図10）。

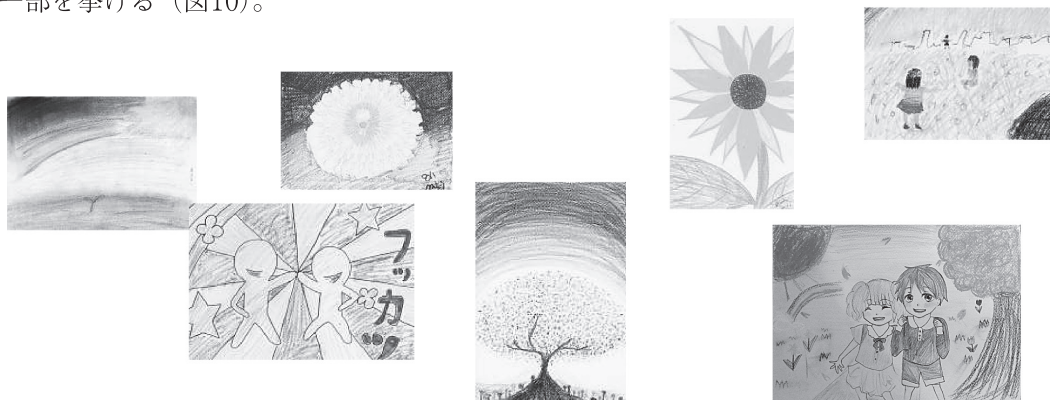


図10 学生のポストカード

3.1.3 「復活Ⅱ」から地域へ

新たな「共に歩む」ためのさらなる取組の一つとして2011年10月の学園祭で地域の人々に協力を呼びかけた。そこでまた、

「観賞する」⇒「考える」⇒「話す・書く」という「表現」することまでのサイクルが始まるのである。

学園祭で学生が制作した「復活Ⅱ」のポストカード（二枚目）（図11）を展示し、多くの方々に鑑賞してもらい、作品に対するメッセージをいただいた（図12、13）。「行動」することが次の「行動」に繋がるのである。



図12-1 地域の方々

図11 学園祭での展示



図12-2 地域の方々

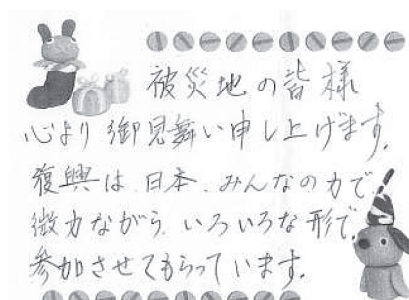


図13 地域の方々のメッセージ



図14 ポストカードで話す学生

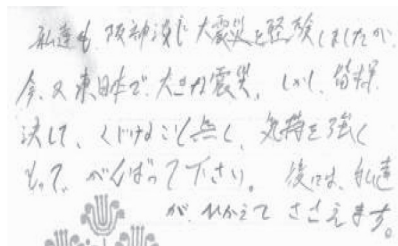


図15 地域の方々のメッセージ



図16 子ども

学生は、地域の方々に自分の作成したポストカードを通して被災地の方々への思いを語った（図14）。それを聞いたり、「復活I」「復活II」を見たりした地域の方々から、被災地の方々にさらに熱いメッセージ（図15）をいただくことができた。

まだ、文字の読めない子ども（図16）も学生の描いたポストカードを持ち、何かを感じてくれていた。

学生たちが東日本大震災から何ヶ月が過ぎたこの時、犠牲になられた方々のご冥福を祈るとともに、復興への願いを込めた絵のメッセージである。



図17 学生のポストカードの展示

地域の方々のメッセージも学生のポストカード（図17）と共に被災地に送らせていただいた。

4 Aの取組

4.1 人権教育－豊かな人間性の育成

「あらゆる場を通じて人権教育を推進する必要がある。」と、筆者は別稿³⁾でも書いているが「豊かな人間性の育成」を造形教育を通して実践している。

ここに、一人の学生の「行動」を取り上げて考えてみたい。

「復活I」を見てAは図18のようなメッセージを書いた。そして、実際に行動した。

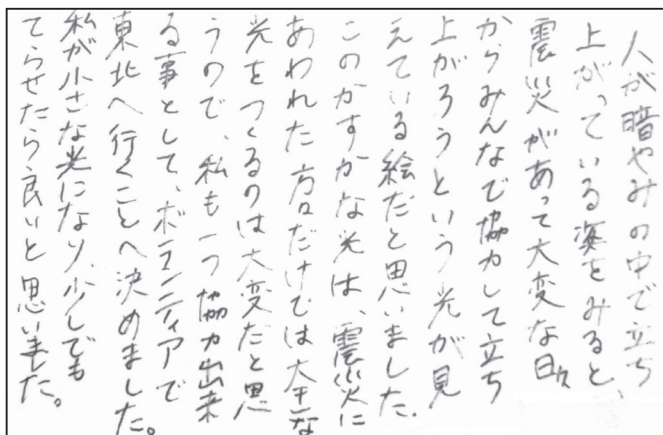


図18 「復活I」を見て書いたAの感想

4.1.1 東日本災害ボランティアに参加

奈良県の支援事業「災害ボランティアバス」の取組に学校法人奈良学園が参画し、本学からも学生が

が参加することになった。Aは応募した学生の一人であり、8月12日～15日まで気仙沼地区でボランティア活動をした。

4.1.2 伝え輪を広める

Aは午前中は大学で学び、午後からは働きながら自分で学費を納めている学生である。

造形表現の授業には意欲的に取り組んでいる。筆者はAのクラス担任でもある。

Aが中心となり、毎月、学級だより「夢と希望」を出している。Aは今回の取組にクラス代表として参加した(図19)がその後、被災地の活動を希望したがどうしても参加できなかった仲間に向けて学級だより「夢と希望」を出して「表現」をした。

1枚は筆者が担任として、1枚は全て自分で編集してクラスの全員に配布した(図18、20)。



図18 「夢と希望」



図19 気仙沼での支援活動

がけ撤去のボランティアをさせてもらいました。長そで長ズボン+帽子+マスクの格好で作業しなければならなくて、暑いのに大変でした。この地域は、写真の通り、海の近くで、とても被害を受けた場所でした。とてもキツイなにもいえないにおいがありました。海の塩のにおいもまが赤です。時間作業したけれど、アツアツにはなごり体力が残りました。テレビで見るよりも、衛生的で、言葉も出ませんでした。これが現実です。テレビでは、任せておかないことも、現地に自ら行くことでも、人の事を体で感じ体験しました。私がどれほど苦な生活を送っていたか、その間にどれだけ苦しんで、せつなさを、行かしている人がいると思うと胸が痛くなるといふ。道を歩いていると、ここに修繕した人は、何となくいるのだろうかと思いはかりました。

図20 Aの感想

4.1.3 Aの気付き

Aは「表現」したものを「鑑賞」して心が動き、「行動」した。(前掲)そして、人権に気付き、「今、自分が何をすべきか。」と考えるようになった。東日本大震災が遠くでおこったことではなく、被災地の方々と共に考え、共に前進していかなければならないことに気付いた。また、Aの「行動」「表現」がクラス全体に広まった(図21)。

ボランティア活動というのは、こんなに大変な事なんだと知りたかった人の為にボランティアをする事は、大変だけれど、やりがいがある事だと思えばいい。若くして人の為に役立ちたいと思えば、それが貴重な体験が出来ると思いました。

図21 ボランティア活動での感想

が奪われましたことに謹んでお悔やみ申し上げます。今後も芸術を通して微力ながら取組を続けてまいります。また、交流いただき資料を提供いただいた岩手県の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 筒井通子 (2011) 「芸術と教育」 奈良文化女子短期大学紀要第42号 p68.
- 2) 文部科学省 専門教育に関する各教科 第12節 美術 (第3章).
- 3) 筒井通子 (2011) 「芸術と教育」 奈良文化女子短期大学紀要第42号 p71.

参考文献

- 筒井通子 (2008) 国際美術教育学会誌2008 「小学校教育の中での美術教育の重要性について」. p7.
- 保育士養成課程等検討会資料3 「保育士養成課程の改正内容について」 (2011). p3.
- フリー百科事典Wikipedia (2011) 東北地方太平洋沖地震. pp1～10.

